



晴れやかネット クラウド型EHR高度化事業の取組

～医療・介護の情報連携はどう変わるのか～

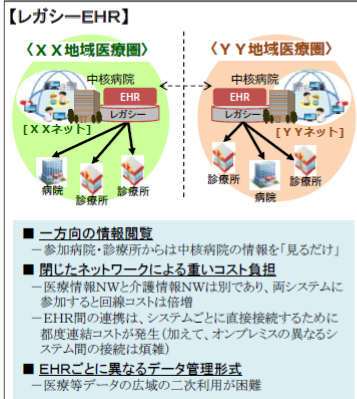
本資料の内容については、開発段階の情報が多々含まれているため予告なく変更する場合があります。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

Copyright © 2017 Okayama Hareyaka Medical Network Association. All Rights Reserved

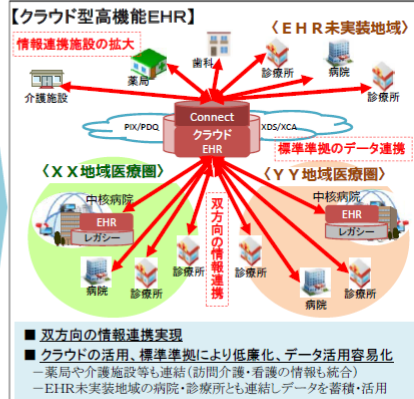
クラウド型EHR高度化補助事業



- 医療機関や介護事業者をネットワークつなぎ、患者の診療情報等の共有を図るための医療情報連携基盤(EHR)は全国各地に約240存在。しかしながら、施設の参加や患者の利用率が低いことや、異なるベンダー間での連携が図られていないことが課題。
- クラウドを活用し、標準に準拠した双方向の情報連携を進めることにより、EHRの利用価値が向上し、参加施設や患者の増加につながり、効果的な地域包括ケアや地域を越えた広域のデータ連携が実現。
- このために必要なクラウド型EHRの整備を行う事業に対して補助を実施。



クラウド型EHR高度化支援の実施



クラウド型EHR高度化事業の目指す効果



1. 地域包括ケアの推進

中核病院との双方向の情報連携の推進により、病院、診療所、薬局、介護施設の参加を促し、地域医療圏内の患者カバー率が向上。

⇒ 地域医療圏内のどの医療機関・薬局・介護施設に行っても患者情報を利用可能。

2. クラウド型電子カルテ導入の促進

クラウド型のEHRを推進することで、電子カルテ未実装の病院・診療所における安価なクラウド型電子カルテの必要に応じた導入を促進。

3. 広域医療圏における患者情報の共有を実現

クラウド型のEHRにより、隣接する医療圏間の情報連携を低コストで実現。

⇒ 二次医療圏をまたがる情報連携が可能となり、住民の生活動線に従った医療・介護情報連携が実現。
(今般の補助事業では、二次医療圏をまたがる連携や三次医療圏（都府県レベル）の連携を促進)

4. 全国規模の情報連携を実現させる前提条件を整備

標準に準拠した情報連携を補助要件とすることで、地域医療圏に閉じたネットワークではなく、地域外のEHRとの情報連携を前提としたシステムの構築を行うことが可能。

⇒ EHRの相互接続環境の整備により、全国のEHRや医療機関等との情報連携を実現。

5. 医療・健康・介護情報の二次利用を促進

医療機関等から医療・健康等データを収集、匿名化し、研究機関や企業の二次利用につなげる「代理機関（仮称）」の創設を見据え、標準的なデータ管理方法を要件とすることで、円滑な医療・健康等データの二次利用を促進。

(※) なお、今般のクラウド型EHR高度化事業の成功モデルについては、厚生労働省が進める地域医療連携ネットワークの普及策を活用して、全国に波及していくことを想定。

出展：総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 情報流通高度化推進室 平成29年1月11日公開説明会資料

小規模医療機関の課題



小規模医療機関は、電子カルテを
持っていない場合が多い

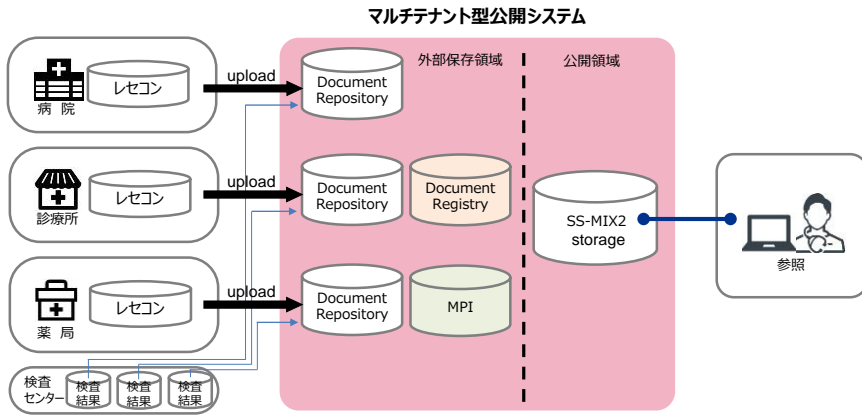
高額な整備費用を払えない

検査は外注している場合が多い

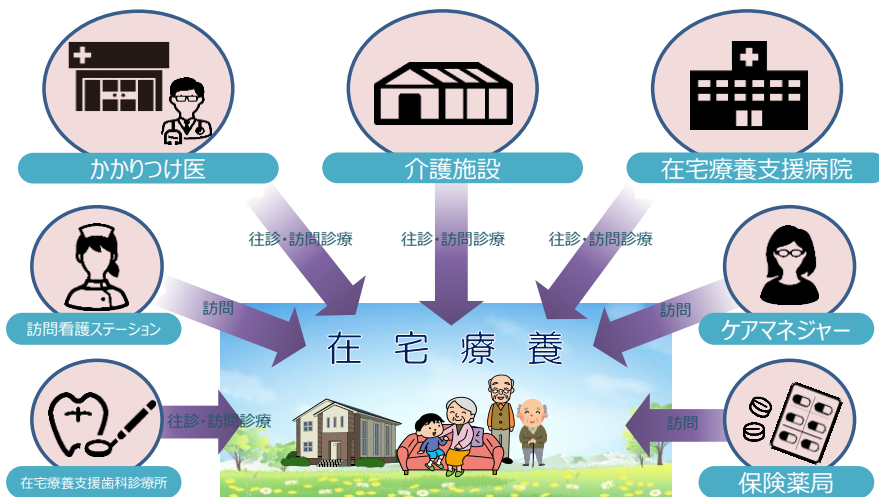


安価に情報を公開できる
仕組みの必要性

小規模医療機関から情報を出す仕組み



多職種での関わり



多職種連携ツール ケア・キャビネットを用いた情報連携



- ファイル登録
 - ・地域連携パス・PDF・画像・動画などをアップロードして保管・参照



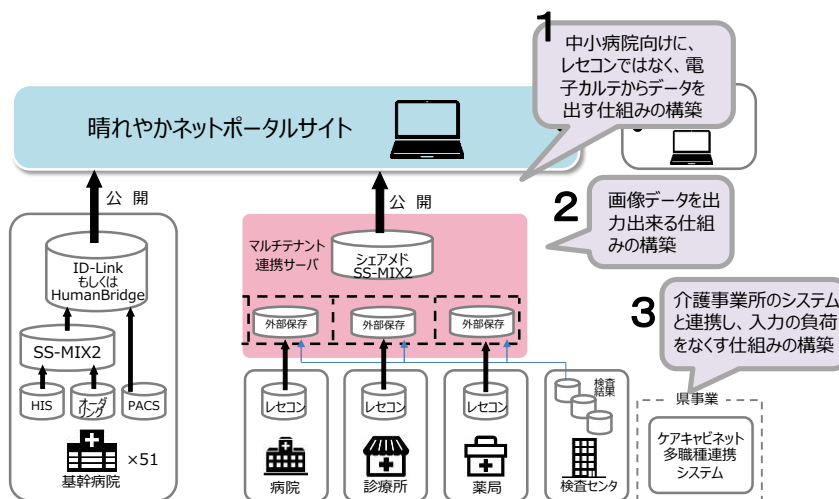
- 入力および雛型入力
 - ・SOAP形式や自由形式での入力
 - ・定型句や選択形式、シエマを活用した入力支援



- 予定表
 - ・患者の1カ月の予定を登録・管理



クラウド型EHR高度化事業で晴れやかネットが目指すもの



1. 電子カルテ連携

- 既存のシェアメドのカレンダー表示項目に、電子カルテ情報項目を追加し、シェアメド同様同一患者情報は名寄せされ、時系列表示できるように実装する

文書タイプの表示項目順については、利用シーン・利用職種に応じた配列に見直しを行う予定。また、一般的にユーザーインターフェースの見直しも実施する。

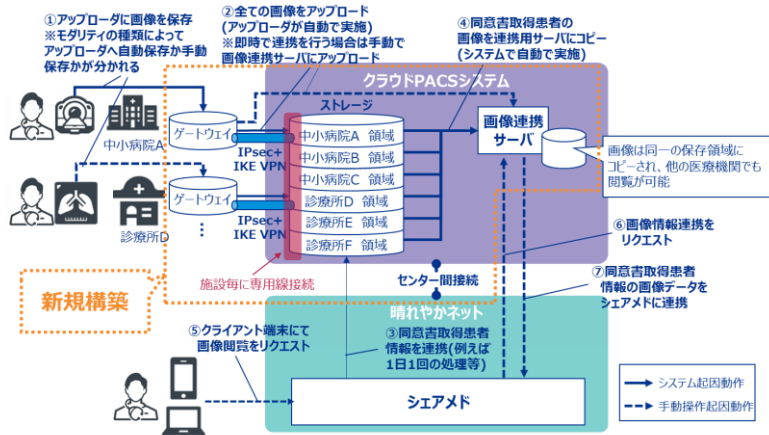
文書については、PDFにタグ付することで、文書種別ごとにフォルダ階層化したところに格納。何の文書が格納されているかわかるようにする

画像情報や電子カルテ情報が格納できるよう、文書タイプ枠を追加で儲ける

画像情報については、シェアメド内にindex（施設ID・自施設患者ID）を作成・管理、これとシェアメド登録情報と名寄せを行うことで、複数医療機関での画像情報の串刺し表示を可能とする

2. 画像連携

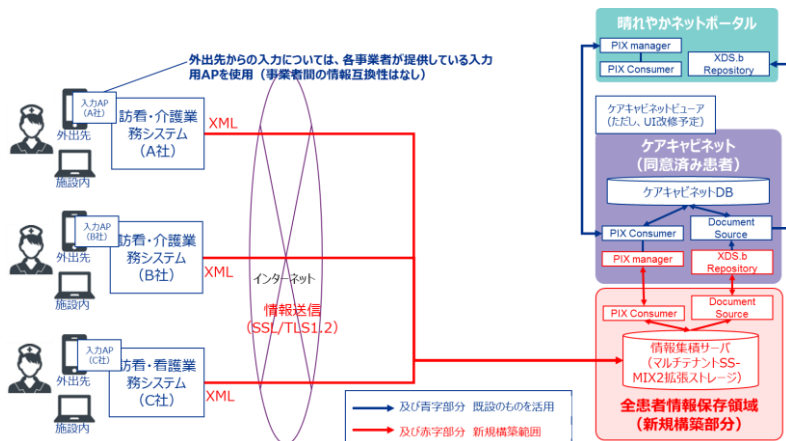
- クラウド上のストレージにアップロードした中小病院・診療所の画像を、晴れやかネット全参加施設に閲覧を許可する構成。（現状のシェアメドでの情報開示設定運用方法に沿う形）また、中央に共同利用可能なPACSを構築する。



3. 医療・介護間の情報連携



- ▶ ケアキャビネット上での連携情報のうち、各施設業務システムから出力可能な情報を抽出、反映させることにより、二重入力の手間を軽減する



2018年 3月
整備完了予定

